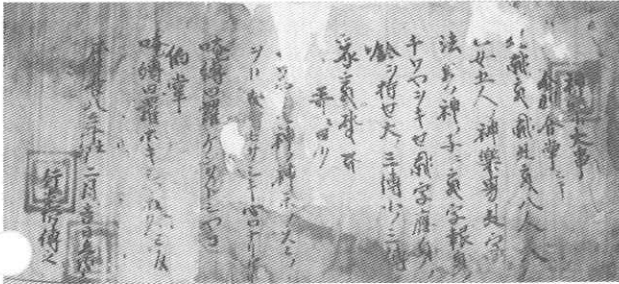


博物館だより

No.6

平成18年10月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667



神道神楽大事（長谷川家文書）

慶長8年(1603)、求菩提山の山伏・行光坊が、神主に与えた神楽の秘伝。

当館では、10月11日から秋の企画展「豊前地方の近世・近代文書展 Part 3」を開催いたします。サブテーマは「神社・神主・神楽の江戸時代」で、福岡県立図書館「京築地区神楽関係史料調査」(平成13～17年度に実施)によって新たに発見された神社の古文書を中心に展示し、江戸時代における神社・神主・神楽の姿を追います。ぜひ、ご来館ください。

秋の企画展 豊前地方の近世・近代文書展 Part 3

神社・神主・神楽

の江戸時代

10月11日(水)～12月10日(日)

■開催期間

10月11日(水)～12月10日(日)

■開催場所

みやこ町歴史民俗博物館展示室

■主な展示品

長谷川家文書

(大分県中津市・中津神社)

網敷天満宮文書

(築上町・網敷天満宮) ほか

■観覧料

大人 200円

高校生以下 100円

■関連行事

文化講演会(兼展示品説明会)

「神社・神主・神楽の江戸時代」

○日時 11月4日(土)

午前10時～11時30分

○場所 当館研修室

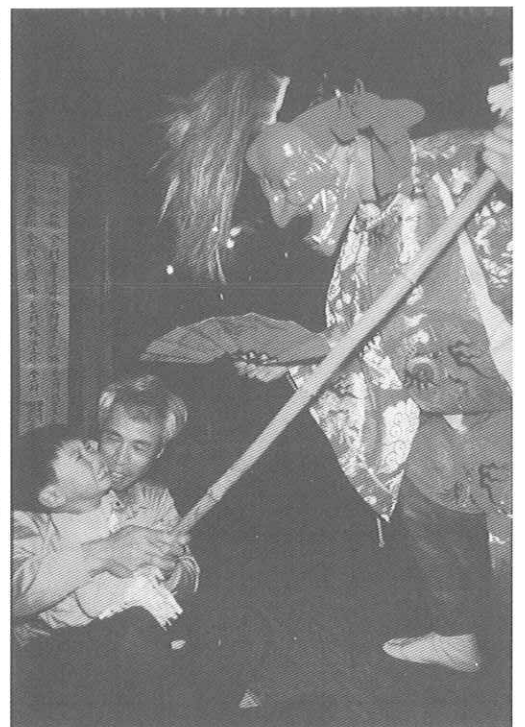
○講師 当館学芸員 川本英紀

■同時開催

「不動」

～向井澄男神楽写真展～

長年にわたり、京築地区の祭りや風物を撮り続けた写真家・故向



御先(みやこ町 下伊良原神楽)
故向井澄男氏撮影

井澄男さん(築上町)の数万点におよぶ作品が当館に寄贈されました。今回の企画展にあわせ、その中から神楽の写真をもピックアップして、ミニ写真展を開催します。

■その他
博物館友の会の会員でない方は入会の上でご参加ください

博物館友の会主催

参加者募集!

英彦山詣の道として栄えた古道「焼尾峠」を歩き英彦山神宮を目指します。

■実施日 10月15日(日)

午前8時～午後5時

■内容 約12キロ歩きます。

当館↓(バス) ↓帆柱↓焼尾峠

↓添田町津野↓英彦山奉幣殿↓

別所駐車場↓(バス) ↓しやく

なげ荘↓(バス) ↓当館

■定員 40名

■加費 200円(保険代)

秋月街道シンポジウム

参加者募集!

昨年、旧豊津町で開催された「秋月街道シンポジウム」が、今年には朝倉市秋月で開かれます。明治9年に豊津で戦闘の行なわれた「秋月の乱」に関する講演等が行なわれます。参加希望の方は博物館までお問い合わせください。

■開催日 10月29日(日)

午前9時30分当館よりバス出発

午後5時頃帰着予定

■場所 朝倉市秋月中学校

■内容 秋月の乱をテーマとした講演会・報告会

■定員 40名

■参加費 保険代等実費徴収

みやこの「お宝(文化財)」拜見⑥

ちゅう あい すい どう

仲哀隧道

国登録文化財

【所在地】京都府みやこ町勝山松田

【完成年】明治二十三年(一八九〇)

【規模・構造】全長四三二m、高さ五・一m、幅六・一m、レンガ・切石積み

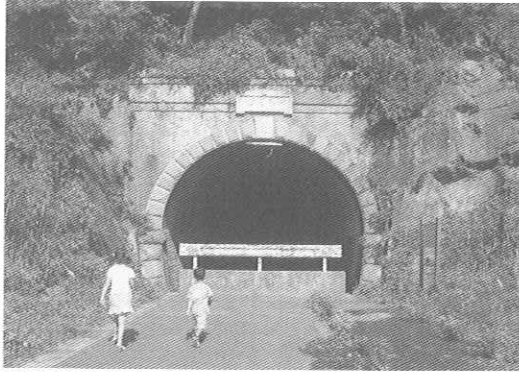
国登録文化財・仲哀隧道

仲哀隧道は、現京都府みやこ町と田川郡香春町を結ぶ全長四三二mのトンネルです。明治一七年(一八八四)二月、京都郡・田川郡の共同事業として工事が開始され、同二三年(一八九〇)一〇月、六年八ヶ月の工期を経て完成しました。昭和三九年(一九六四)に新仲哀隧道が完成した後はほとんど使用されなくなりりましたが、現在は国の「登録文化財」となり、貴重な文化財の一つとして保護措置が講じられています。

登録文化財とは、平成八年の文化財保護法の改正によって新設された制度です。それまでの指定制度を補うものとして、建造物を対象に導入された制度で(現在は建造物以外の有形文化財、有形民俗文化財、記念物も対象、指定制度よりも緩やかな保護措置によって文化財を護ろうとするものです。

七曲峠

江戸時代、京都郡と田川郡を結ぶ峠はいくつかありましたが、なかでも「七曲峠」は最も重要で、交通量の多い峠でした。この峠は「香春道」などと呼ばれた街道の一部であり、京都郡側は新町村(現みやこ町勝山)が、田川郡側は香春町(現田川郡香春町)が宿場町でした。



▶仲哀隧道 香春側口

元禄七年(二

六九四)、福岡藩の儒学者・

貝原益軒は豊前・豊後を旅

し、「豊国紀行」という紀

行文を残して

います。五月

一日に福岡を

出発した益軒

は、五月五日

(新暦では五月二

八日)に七曲

峠を越えまし

たが、その時

のことを次のように記しています。

「鏡山村を過行は、其東に、七曲

とて高き嶽あり、東西上下の坂、

凡一里ばかりあり、其山上は

田川京都両郡の境なり、山上より

東北の方、海陸の詠めいとよ

し、山の東は京都郡なり」

また、京都郡上稗田村(現行橋市)

の漢詩人・村上弘山は、母親の実

家が田川郡高野村(現香春町)だっ

たこともあり、たびたび七曲峠を

越えています。ある時「夜踰七

曲嶺(夜七曲の嶺を踰える)」と題して

こんな詩を詠んでいます。

水激石如言 雲忙月似奔
夜又来攫我 熟視是松根

【意訳】水は激しく流れ、岩はモノを言

いそうだ、雲はせわしく動き、

月は走るようにかけてゆく、化



▲仲哀隧道と周辺の峠 (国土地理院1/25000図「行橋」より作成)

け物の手がのびてきて私をさら
おととする、よく見たら松の根っ
こだった
いささか大袈裟ですが、夜中、
ビクビクしながら峠を越える弘山
の姿が目につかびそうです。

呼び名の混乱

京都郡側から仲哀隧道に至るつ
づら折れの峠道は、道路の両側に
植えられた桜が見事で、季節にな
るとトンネル手前の峠道が花見客
で賑わいます。

ところで現在、桜の名所である
この峠を「七曲峠」と呼ぶことが
ありますが、実は仲哀隧道に至る
この道をそうやって呼ぶのは誤り
です。江戸時代、貝原益軒が眺望
をたたえ、村上弘山が夜中にビク
ビクしながら越えた七曲峠は違う

道なのです(地図参照。現在は廢道。
仲哀隧道の名称は、土地の小字「仲
哀天皇平」にちなんで付けられた
名前です。トンネルに至る峠道も「仲
哀峠」が正しいものです。おそら
く、仲哀隧道が出来た当初から、
馴染みの薄い仲哀峠の名前と、使
い慣れた七曲峠の名が混用されて
きたため、その名残で今も呼び方
に混乱があるのだと思われます。

仲哀隧道の工事顛末

ところで、明治一〇年代に京都
郡と田川郡を結ぶ新道建設の計画
がもちあがった当初、その場所は
石鍋峠付近とされていきました。石
鍋峠は七曲峠の北、中世の山城跡
がある障子ヶ岳南脇を走る古道で
す。しかし、現地調査の結果、
勾配があまりに急なため計画を変
更し、仲哀谷(仲哀天皇平)に隧道
と新道をつくることになったので
す。

仲哀隧道建設工事は大変な難工
事でした。建設費は当初計画の約
二・五倍、二万四〇〇〇円近くに
のぼり、詳細な犠牲者数は不明で
すが、落盤事故により工事関係者
の尊い命が失われています。

【注意】 水害被害による通行
止めのため、仲哀隧道みやこ町
側の入り口へは現在行けません。
また、トンネル内は落石の恐れ
があり常時通行止めです。